

リサイクル計画書（詳細設計）

業務成果として、設計業務の受注者が作成し報告書に添付

1. 設計概要

発注機関名		委託名	
履行場所		工事着手予定時期	
設計概要等			

2. 建設資材利用計画

建設資材	① 利用量	② 現場内利用可能量	③ 再生材利用可能量	④ 新材利用可能量	⑤再生資源利用率 (②+③)/①×100	備考
土 砂	地山m3	地山m3	地山m3	地山m3	%	
砕 石	トン	トン	トン	トン	%	
アスファルト・コンクリート	トン	トン	トン	トン	%	
	トン	トン	トン	トン	%	

※ 最下段には、その他の再生資材を使用する場合に記入する。

3. 建設副産物搬出計画

建設副産物の種類	⑥ 発生量	⑦ 現場内利用可能量	⑧ 他工事への搬出可能量	⑨ 再資源化施設への搬出可能量	⑩ 最終処分量	⑪現場内利用率 (⑦/⑥)×100	備考
建設発生土	第1種 建設発生土	地山m3	地山m3	地山m3	—	地山m3 %	
	第2種 建設発生土	地山m3	地山m3	地山m3	—	地山m3 %	
	第3種 建設発生土	地山m3	地山m3	地山m3	—	地山m3 %	
	第4種 建設発生土	地山m3	地山m3	地山m3	—	地山m3 %	
	泥土（浚渫土）	地山m3	地山m3	地山m3	—	地山m3 %	
合計	地山m3	地山m3	地山m3	—	地山m3 %		
コンクリート塊	トン	トン	トン	トン	—	%	
アスファルト・コンクリート塊	トン	トン	トン	トン	—	%	
建設発生木材	トン	トン	トン	トン	—	%	
建設汚泥	トン	トン	トン	トン	—	%	
建設混合廃棄物	トン	トン	トン	トン	—	%	

※ 建設発生土の区分（既存資料から判断するもとする）

①第1種建設発生土・・・砂、礫及びこれらに準ずるもの。

②第2種建設発生土・・・砂質土、礫質土及びこれらに準ずるもの。

③第3種建設発生土・・・通常の施工性が確保される粘性土及びこれらに準ずるもの。

④第4種建設発生土・・・粘性土及びこれらに準ずるもの。（第3種建設発生土を除く）

⑤泥土（浚渫土）・・・浚渫土のうち概ねqc2以下のもの。

※ 建設発生木材の中には、伐開除根材及び剪定材を含む。

※ 利用・搬出可能量は、現時点で算出可能なものを記載する。

※ 建設副産物の搬出計画について、基本的には全量を再利用することを原則として計画する。